

腎機能不全を主徴とした馬のレプトスピラ症

畠添 孝¹⁾ 帆保誠二²⁾ 山下紀幸³⁾ 小松耕史³⁾ 三角一浩^{3)†}

- 1) 日本軽種馬協会九州種馬場 (〒899-8313 曾於郡大崎町野方3995)
- 2) 日本中央競馬会競走馬総合研究所栃木支所微生物研究室 (〒329-0412 下野市柴1400-4)
- 3) 鹿児島大学農学部 (〒890-0065 鹿児島市郡元1-21-24)

(2008年4月17日受付・2008年9月25日受理)

要 約

長距離輸送直後から発熱に対する治療を繰り返した後、腎機能不全となった1歳馬が、輸送後21日目に動物病院に搬入された。入院初日、可視粘膜充血、白血球数増加、高尿素窒素血症を認め、導尿によって得た尿沈魏および血液の培養液からPCR法で病原性レプトスピラの特異的遺伝子を検出した。輸液(75ml/kg/日)と抗生物質治療(セファゾリンナトリウム50mg/kg/日)を開始し、第11と21病日には、それぞれ白血球数および血中尿素窒素(BUN)は低下・安定化したが、多飲多尿、BUN/クレアチニン比の上昇、高カルシウム低リン血症が持続し、第33病日に安楽殺した。剖検では腎臓の腫大と皮質の慢性炎症を認め、病原体レプトスピラ特異的遺伝子も検出された。腎機能不全を主徴とした馬のレプトスピラ症と診断し、疫学調査の必要性が示唆された。

——キーワード：馬，腎機能不全，レプトスピラ。

----- 日獣会誌 62, 303～307 (2009)

† 連絡責任者：三角一浩 (鹿児島大学農学部獣医学科家畜外科学教室)

〒890-0065 鹿児島市郡元1-21-24

☎099-285-8731 FAX 099-285-8732

E-mail : kaz_msm@agri.kagoshima-u.ac.jp